

2年次教育実習における実習内容および実習園の実態 (平成17年度)

宮崎 恵

A 2005 Kindergarten Student-teaching Program Report : Contents and Conditions

Megu MIYAZAKI

1. はじめに

昨年度は、学生の実習内容（事前準備、責任実習内容、日誌、指導案）および生活時間（起床時刻、就寝時刻、睡眠時間）についての調査内容を報告した。実習内容は配属された実習園の地域性、規模、バス通園の有無や指導方針の差による拘束時間の問題など、さまざまな要因によってその差が著しい。実習園によって、学生への負担が非常に大きすぎたり、実習内容が違いすぎたりすることは問題であろう。

実習園の選定については、事前に学生からの希望調査を取り、自分で探して依頼するか、学校側からの指定配属とするかを選択できるようにしている。指定配属は、これまで実習を継続的に協力していただいている幼稚園を中心に選定し、また、学生の出身園にも依頼している。地方出身の学生については、3週間という実習期間の問題、および就職との関係から、地方を選ぶか、現在地での実習を選ぶかという選択もある。

3週間の実習内容・スケジュールについては、養成校としてのお願（概要説明）を提示してはあるが、実習園にとっては、いろいろな行事・予定がある中で協力していただいているため、園の実情に沿ってお任せしているところが現状である。そこで、本報では本学教育実習の実態がどのようなものであるか、その概略を明らかにしたいと考える。

2. 調査方法

対象：平成17年度2年生（回収112名）

方法：教育実習終了後の実習報告書による。なお、一園につき2名の学生を配属した幼稚園が25園あるため、3.3以下の項目についての数値は延べ園数となっている。また、項目により未記入があるため、集計総数にはばらつきがある。

3. 平成17年度実習園の概要

1) 実習園数（図1）

実習園総数は、103園（関東近辺79園、地方24園）であり、そのうち私立園が89園、公立園が14園であった。公立園は、秦野市立の3幼稚園以外は、すべて地方園である。指定配属の場合、就職の可能性を考慮して私立園を選定しているが、秦野市は私立園が少なく、この市から通学している学生は殆ど公立園で実習させてもらっている。なお地方の場合は、通勤時間等の問題もあり、学生に希望園を任せている。今年度は24園の内、11園（46%）が公立であり、年

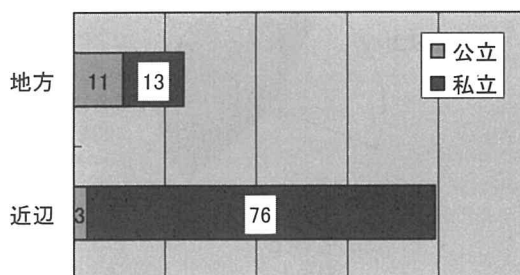


図1 実習園数

ごとに公立園を希望する学生が多くなってきている。

2) 実習園所在地 (図 2)

実習園の所在地を分類すると、東京都39園、神奈川県32園、その他の県32園で、それぞれが約三分の一の割合を占めている。東京都の内訳は、23区内が9園(世田谷区4、練馬区2、北区1、杉並区1、台東区1)となっており、都下が30園(八王子市8、稲城市5、町田市4、その他13)であった。神奈川県では、川崎市7、横浜市6、相模原市4、秦野市3、その他12、である。その他の県では、埼玉県6、茨城県4、山梨県4、静岡県4、新潟県4、千葉県3、長野県2、福島県2、その他3であった。

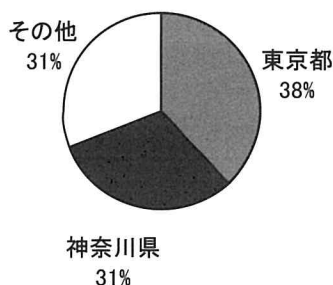


図 2 実習園所在地

3) 園児数 (図 3 N=106)

実習園の園児数を見てみると、200名以上300名未満の園で実習した学生が最も多く(31%)、次いで300名台(24%)、100名台(22%)、100

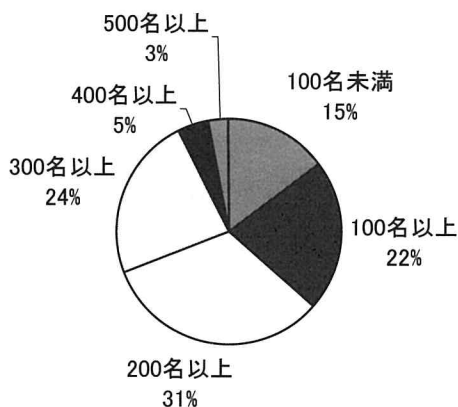


図 3 園児数

名未満(15%)となっている。500名以上の園で実習した学生は3%存在し、最も園児数の多かった実習園は800名以上だった。学生の約8割が、100~300名台の幼稚園で実習していることが分かる。

なお、100名未満の幼稚園は、関東近辺で5園(公立1、私立4)、地方で11園(公立6、私立5)存在し、最も園児数の少ないところは32名であった。

4) 園バスの有無 (図 4 N=109)

園バスを有している園は、87園(80%)にのぼる。中には5台以上のバスを運行している園もあり、コースによって登園時間に差が大きく、時間差保育を行っている所もあった。園バス運行は、実習生の勤務時間にも影響しており、朝早くからの出勤に繋がっている。

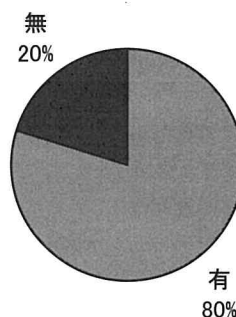


図 4 園バスの有無

5) 預かり保育の実施状況 (図 5 N=109)

預かり保育は92園(84%)が実施している。預かり保育には専門の担当者が配属されている

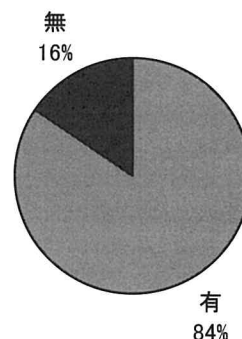


図 5 預かり保育の有無

ことが多く、実習生は関わらないことが多いようであった。

6) 給食の有無 (図6 N=109)

給食は週に2~3回実施している園が多く、毎日実施している園と合わせると81園(74%)となっている。また、給食を一切行っていない園も28園(26%)存在している。

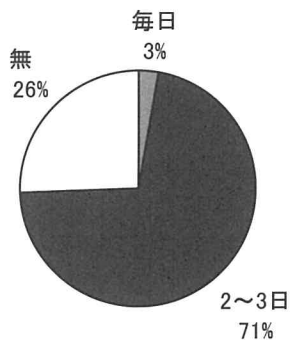


図6 給食の有無

7) 実習生の人数 (図7 N=108)

実習園には同時期に他の養成校からも実習生が来ていることが多い。1園でどのくらいの人数を受け入れているのか(本学からの実習生を含む)を調べた。本学の実習期間は3週間であるが、養成校によっては2週間とか1週間の実習であったりする。また、実習園は時期をずらせながら受け入れを引き受けているため、期間全部が重なっているわけではなく、1週間あるいは数日のあいだ一緒だったといったものも含めた数値である。1~2名の実習生であった園が一番多く40園、次いで3~4名が33園と続く。実習生が一番多かったところでは9名の実習生を受け入れていた。

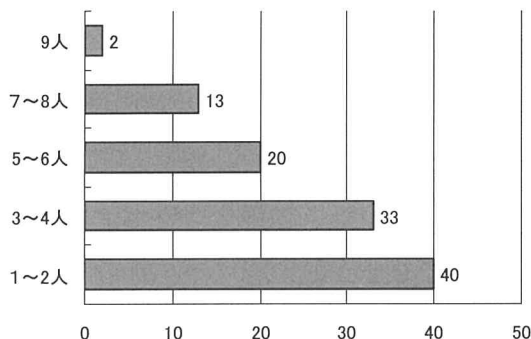


図7 実習生の人数

8) 園の行事・催し物 (図8 複数回答)

実習期間中、幼稚園ではさまざまな催し物が行われており、実習スケジュールが組みにくいといった話も聞いている。また、実習生の参加が認められない内容もあって、実習期間の延長を余儀なくされる場合もある。一方で、さまざまな保育内容に触れることができ、普段とは違った子どもの様子が観察できたり、先生方の苦労を感じ取ったりできる貴重な体験ともなっている。

期間中、最も多かった行事は保育参観(83件)であった。父の日の前後に組まれており、交流会とか、プレイデイとかの名称で親子の触れ合いを意図したものである。次いでジャガイモ掘りや田植えなどの園外保育(36件)、誕生会(25件)、人形劇やコンサート等を含む観劇会(19件)、防災訓練(18件)、遠足(9件)、プラネタリウム(6件)等があった。職員研修(5件)にも参加させてもらった学生がいて、

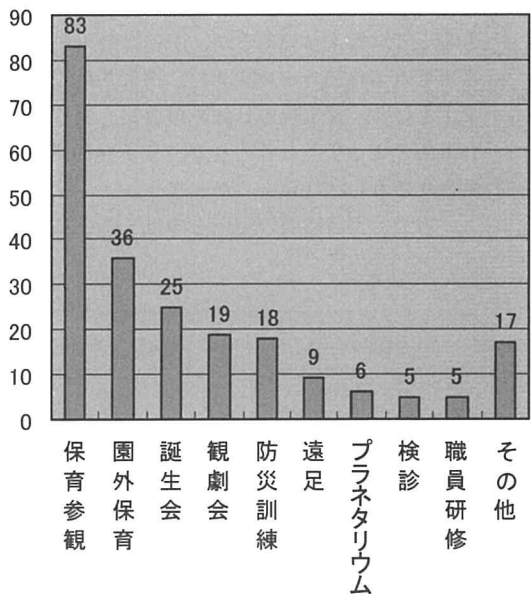


図8 園行事

勉強になったようである。

9) 保育内容の特色 (図9 複数回答)

一番多かったのは、体育指導 (59件)、次いで音楽指導 (26件)、英語 (22件)、造形 (17件)、水泳 (14件)、リトミック (14件) であった。殆どが専門講師による指導 (保育時間内で行われている) である。その他として、コンピューター、剣道、漢字指導、書き方指導、茶道などがあつた。1園で3・4種類以上の内容が記載されていたところが24園あり、特にないと回答したものは28園だった。また、モンテッソリ教育を取り入れている園が6園あつた。

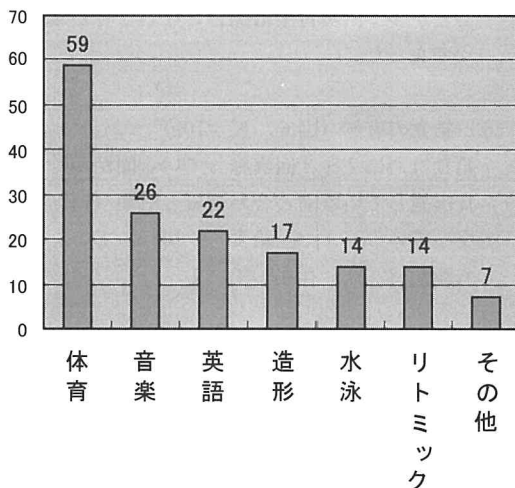


図9 保育内容の特色

4. 実習内容について

1) 出勤時刻、退勤時刻 (図10, 図11 N=110)

一番多かった出勤時刻は、7時30分～8時までの時間帯であり、退勤時刻は16時30分～17時までとなった。この時間帯であれば学生も無理なく実習ができ、理想的であろう。しかし、7時30分までに出勤しなければならなかった学生が35名 (32%) 存在し、また、退勤が17時30分以降の学生も24名 (22%) 存在している。出勤時刻の差は1時間程度であるが、退勤時刻の格差は2時間以上に及ぶ。早めの出勤を義務付けているところは、ある程度早めの退勤を考えてもらっているようであるが、中には早くから遅くまで (7時30分～18時30分) 拘束されていた学生もいる。帰宅後の日誌や指導案、翌日の保育準備のことなどを考えると、もう少し早く退勤させてもらえないものかと思う。

一方で、実習時間の短いものは8時～15時30

分という学生も存在しており、実習園によって、その差が著しいことが分かる。

2) 事前準備の課題

①ピアノ課題の有無と曲目数 (図12 N=116)

教育実習に臨む学生にとって、ピアノ演奏を負担に感じるものは多い。いまだバイエル程度しか弾けないという学生には、朝の会や昼食、帰りの会などでの歌の伴奏曲についても事前に練習を重ねていなければならないため、オリエンテーション時に課題曲を聞いておくよう指導している。その報告書によれば、特に言われなかったと回答したものが41名にのぼった。しかし好きな曲とか季節の曲を自分で準備するよう示唆されているようである。3曲程度の課題曲を渡された学生が一番多かったが、5曲、10曲

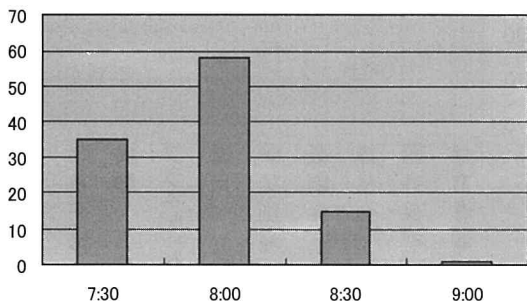


図10 出勤時刻

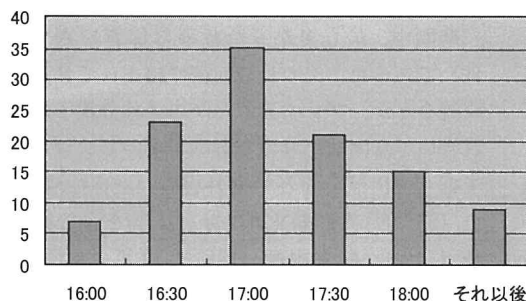


図11 退勤時刻

と、かなりの曲数を指定されている学生も見受けられる。なお、実習中は一度もピアノを弾かなかったと報告した学生が1名存在した。

②責任実習への課題や指導案作成について

責任実習（主活動）の内容について、事前に指導案の書式にまとめてくるよう指示された学生は少数であるが、何かしらのものを考えておくよう指導されている。しかしオリエンテーション時に配属クラスのスケジュールが決まっていない実習園もあり、担当年齢が未定のまま責任実習を計画しなければならない学生もいる。

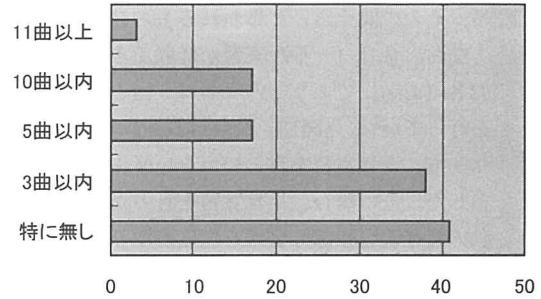


図 12 ピアノ課題

3) 責任実習の内容 (表 1)

部分実習については、ほぼ全員が経験させてもらっている。内容は手遊び、紙芝居や絵本読み、歌の伴奏といったものから、朝の会、昼食、帰りの会、主活動などである。しかし、その頻度については、数回の者から、ほとんど毎日行っていた者など、回数の実数比較はできなかったが、その記述内容から随分と違いがあることが分かる。例えば、少ない学生では、「絵本読みの部分実習1回と、帰りの会1回のみ」といった学生もいれば、「紙芝居2回、音楽の身体表現1回、主活動5回、朝の会2回、お弁当2回、半日実習1回、ピアノ1回(2曲)」といった学生もいる。表1に、報告書記載の具体例を紹介する。内容・頻度の多いものと少ないもの

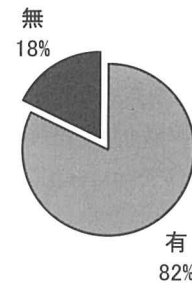


図 13 全日(一日)実習の有無

表 1 責任実習の内容例

	全日実習	部分実習の内容 (原文のまま)
1	有	絵本3回、ピアノ3回、部分(お帰り)実習1回
2	有	朝の会2回、昼食1回、帰りの会1回、絵本2回、歌唱指導 空いた時間で数回
3	有	紙芝居2回、音楽の身体表現1回、主活動5回、朝の会2回、お弁当2回、半日実習1回、ピアノ1回(2曲)
4	有	朝の会2回、昼食3回、帰りの会2回、絵本2回、主活動1回、ピアノは朝・昼・帰りの歌を初日以外毎日弾く
5	有(2回)	絵本、朝の会、昼食、帰りの会→ほぼ毎日、主活動2回(全日実習の中で)
6	有(3回)	絵本・歌唱指導・手遊び→ほとんど毎日、お昼～降園(週3回ぐらい)
7	無	絵本・手遊び6回、帰りの会1回
8	無	絵本読み2回、主活動1回
9	無	出席とり1回、紙芝居1回、ピアノ1回、主活動1回
10	無	紙芝居、絵本、手遊びはクラスによって有り、主活動は造形活動を1回行なう
11	無	朝の会1回、帰りの会1回、主活動1回、半日実習1回
12	無	手遊び・絵本は毎日行なう。朝の会は2週目から毎日、ピアノも2週目から毎日弾く。半日実習1回

の、その中間くらいと思われるものを抜粋した。

なお、全日（一日）実習が経験できた学生は92名（82%）であり、内2名は3回も全日実習を行っていた。（図13 N=112）

一方、全日実習を行っていない学生が20名存在した。その場合、半日実習を行ったり、主活動の責任実習や部分実習を何度か取り入れてもらって、一日の流れが経験できるように配慮されている学生もいれば、数回の部分実習のみで終了している学生も存在している。後者のような園では、保育内容のスケジュールがびっしりと決まっているため、実習生に時間を与えることが困難なのだと言っている。

責任実習は多ければ良いという問題ではない。しかし、何度かの部分実習を繰り返すことによって、一日の流れが体験できることが望ましい。

また、学生の負担を考えれば、責任実習が多すぎることも睡眠不足や体調不良を招くこととなり、問題であろう。

5. 結びにかえて

実習園の選定においては、実習先の指導体制や指導内容を理解し、学生の保育技術や能力、性格などを考慮した配属が望ましい。

過去の事例において、学生が体調不良を起こし、実習中止や実習取り下げに至った原因には、ピアノの負担が大きい指導や、責任実習指導（実践内容の可否および実践回数に伴う指導案作成）に関する内容、加えて拘束時間の長かった実習が多かった。いずれも学生自らが自己研鑽に励み、事前学習を十分行なっていれば特に問題を起こすほどの要求ではないのかもしれない。しかし、現実にはそうした指導に困難を伴う学生が存在している。

今回、実習園の概要および実習内容について整理してみたが、それぞれの園で実習内容が大きく異なっていることが明らかとなった。園の事情もあるため一律の指導は望めないとしても、実習時間や責任実習の頻度・内容についての基本ラインを具体的に示していくなど、実習園との交流を通して理解を求めていく必要がある。また、2年次の実習は、就職との結びつきも大きいことから、本報において明らかになった園の特徴や実習内容を参考に、実習指導に活かしていきたいと考える。

参考文献

1. 宮崎 恵「保育科学生の実習内容および生活時間に関する一考察」駒沢女子短期大学研究紀要第38号：27-33、2005